

## ミャンマーサイクロン 復興支援活動の様子

昨年5月の災害発生から8ヶ月、ミャンマーの被災地では緊急救援が終了し、復興支援活動が開始しました。日本赤十字社（以下、日赤）は、今後約2年半の間同活動を支援していきます。

現在日赤からは、吉田千有紀さん（和歌山医療センター看護師長）を要員として国際赤十字・赤新月社連盟に派遣しています。ミャンマーでの復興支援活動では、特に保健衛生分野においてミャンマー赤十字社スタッフとともに活動を実施しています。

吉田要員による写真レポートを中心に、現地の活動の様子を随時更新しながら、皆様にお伝えしていきます。



公衆衛生教育の一環として、小学校で歯みがき教室を開催しています。まだ補修ができていない校舎でも、子どもたちは元気いっぱい、真剣に正しい歯磨きの方法を学んでいます。



コミュニティの中で、被災者等の応急処置ができるよう、CBFA（Community-Based First Aid）の研修も多く開催されています。



「しっかり飲んでね」子どもたち一人ひとりに声をかけながら、オートミール粥を配る吉田要員。



大小多くの川が入り組んだデルタ地帯（被災地）では、人も物資もボートで移動します。



学校での衛生教育の様子①  
トビア村の小学校、40名の子供たちへの手洗い  
教室、先生も子供たちの両親も加わりました。  
ミ赤はこの小学校にも石鹼を含めた衛生用品  
100セットを配布しました。



学校での衛生教育の様子②  
子どもたちが、自分たちで作った衛生教育用  
の歌を歌っています。